

「南オーストラリア州で学生たちに学ばせたいこと」(平成28年11月)

岡山県立大学が設立された平成5年に、岡山県は南オーストラリア州と姉妹縁組を結び、これまで両地域間で様々な友好交流が積み上げられてきました。本学でもアデレード大学や州立高等職業専門学校等の協力のもと、学生のための研修事業を平成26年度から開始しました。これらの研修の内容・方法の充実強化のため、この度関係教職員と一緒に州都のアデレードを訪問しました。調査や協議・確認の柱が保健福祉分野であったことから、医療機関や子育て支援施設などが主な訪問先となりました。

アデレードで最先端の総合病院 **Royal Adelaide Hospital** が、間もなく新しくなります。巨額の予算と長い年月をかけてやっと完成するこの新たな病院について、州政府の担当職員からお話を伺いました。主な特長は、○デザイン(形や色など)への配慮、○最新技術による患者案内やカルテ情報共有等のシステムづくり、○災害発生時でも持続可能な各種対応、○患者を中心に据えた病院づくり、○徹底した環境対策などであり、いわゆるソフト重視の取組方針を積極的にアピールしていることに驚きました。

また、日本では馴染みの薄い「地域診療所の医師と病院との関係及び役割分担」については、実際に診療所を訪れて説明を受けました。日豪の違いを学べただけでなく、アデレードでも、軽度の患者がいきなり大きな病院に行ってしまうケースが多いようで、「日本ではそういう場合は別料金を上乗せして支払う必要がある」旨を説明したところ、「オーストラリアでも同様のシステムを早速導入すべきだ」という意見が多く出されました。

いわゆるLGBTなど性的少数者のことや、性的健康問題については、日本ではなかなか学ぶ機会が少ないのが現状です。これらの問題に関して、南オーストラリア州政府では、かなり以前から専門部署を設けて、教育普及活動並びに相談指導体制を充実させています。今回その本部と州内各地に設けられたクリニックのひとつを訪問し、小学生等幼い段階からきちんと教育できるよう、教材開発にも熱心に取り組んでいる様子が分かりました。

子育て支援兼保育施設については、裕福なエリア及び移民が比較的多い地区の2カ所で訪問できました。1つめの施設のすぐ隣には公園があり、暖かな木漏れ日の下で、幼い子どもたち約50人がバーベキューを楽しんでおり、



これほどの素晴らしい環境は見たことがない、と本当に感動しました。ここでは、遊具の種類を見て、「やや危険ではないのか」という質問をしたところ、「周りの大人が危険を排除してしまうのではなく、何が危ないかを子ども自身で理解できるように、まずは何でもやらせてみる、というのが基本方針である」との説明を受け、なるほどと思いました。

2つめの施設では、日々の活動の実態・成果と子どもの成長の様子を、写真・文章・子どもの作品等でまとめた「ポートフォリオ」を、毎年全員分作成して、これにより保護者との意思疎通を図っているという事例や、忙しい保護者のために、施設で晩ご飯を準備・販売していることなど、日本でも参考にしたい内容について説明・紹介いただきました。

このように、海外での研修では、日本との違いに気づくだけでなく、日本と同じことや似通っているものにも目配りをしながら、さらには先進的な取組も注視した上で、どのようなことが重要で、何を大切にしなければならないのか、そういった感覚や見識を、学生たちにぜひとも身に付けて欲しいと思います。



今回の調査・協議・確認等を活かしながら、本学学生にとってより充実した内容の研修が今後実施できるよう、関係者でしっかり話し合い、準備を進めていこうと思っています。